

令和5年度 第1回 海南省総合教育会議

会 議 録

令和5年度 第1回海南市総合教育会議

日 時 令和6年2月22日(木)
場 所 海南市役所 2階 第4委員会室

出席者	海南市長	神 出 政 巳
	教育長	西 原 孝 幸
	教育長職務代理者	露 峯 明 信
	教育委員	中 山 佳 子
	教育委員	岩 本 智 佳
	教育委員	熊 代 秀 至

事務局職員出席者

教育次長	中 野 裕 文
教育委員会総務課長	藤 岡 宏 樹
学校教育課長	福 田 匡
教育委員会総務課総括班長	岡 島 正 子
学校教育課総括班長	谷 所 正 崇
総務課教育総務班主任	良 田 翔 吾
総務課教育総務班副主任	江 藤 大 介

次 第

- 1 市長挨拶
- 2 協議事項
(1) 南野上小学校、北野上小学校、中野上小学校統合実施計画(案)について
- 3 その他

(午後1時30分 開会)

藤岡教育委員 定刻になりましたので、ただ今より令和5年度第1回海南市総合教育
会総務課長 会議を開催させていただきます。

本日は、皆様方におかれましては、大変ご多用の中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

それでは、開会にあたり、神出市長からご挨拶をいただきたいと思えます。

神出市長 皆様、今日は。

能登半島の方ではまた、寒さが厳しくなっているようでございますが、本日は皆様方に総合教育会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。

平素は、本市教育の充実・発展のため、ご尽力賜り厚く御礼を申し上げます。

まず、お正月早々、令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表すると共に、今尚寒さが厳しい中、大変な思いをされている被災者の方々が、一日も早い元の平穏な生活に戻られることを心より祈念を申し上げる次第であります。

私どもも昨年6月2日の豪雨災害を念頭に、明日は我が身という思いで、元旦の夜から緊急消防援助隊3陣に始まり、給水支援、災害支援ナース、避難所支援、住家被害認定士の派遣を行っているところでございます。

さて、全国的に少子化が進行する中、海南市におきましても児童生徒数は、減少の一途を辿っておりまして、少子化に適切に対応した教育環境の改善・充実が求められております。その様な中、教育委員会におきましては、令和4年7月に「海南市学校規模適正化基本方針」を策定し、この基本方針に則り三野上地域における小学校の適正配置を図るため、昨年度から三野上地域の保護者、地域住民を対象として、ご意見を聴取する場を設け、そこで頂いたご意見を反映し、今回「南野上小学校、北野上小学校、中野上小学校統合実施計画(案)」を策定されたとのことであります。

本日は、この実施計画(案)の内容につきまして、教育委員の皆様方のお考えをお聞かせいただき、次代を担う子供たちにとって、より良い教育環境の実現に向けて、協議を行いたいと考えます。

皆様方には、忌憚のないご意見をお願い申し上げ、結びに、皆様方の益々のご健勝・ご多幸を祈念申し上げ、開会のご挨拶と致します。

本日はご出席ありがとうございます。

藤岡教育委員
会総務課長

ありがとうございました。それでは、この後の議事の進行については、規定により神出市長にお願いしたいと存じますのでよろしくお願い致します。

神出市長

それでは、早速、議事を進めさせていただきます。

次第の日程「2 協議事項」の「(1) 南野上小学校、北野上小学校、中野上小学校統合実施計画(案)について」であります。

冒頭の挨拶でも申し上げましたが、教育委員会ではこれまでも三野上地域における小学校の適正配置の取組を進めてきたところであり、令和4年12月には政策調整会議の中で中間報告をしていただき議論をしたところでございます。今回、教育委員会によって「南野上小学校、北野上小学校、中野上小学校統合実施計画(案)」がまとめられたことから、その内容等について、総合教育会議で協議をさせていただきたいと考えております。

では、まず初めに、統合実施計画(案)の内容について、事務局より説明をお願いします。

藤岡教育委員
会総務課長

それでは、南野上小学校、北野上小学校、中野上小学校統合実施計画(案)の説明をさせていただきます。

案の資料をご覧ください。

まず、1ページです。

1ページには、「学校規模の適正化に関する基本的な考え方」を示しておりまして、「海南市学校規模適正化基本方針」で示しました、適正な学校規模を確保することで、児童生徒の教育条件の改善と、学校教育の目的をより良く実現するため、保護者や地域の方々の理解と協力を得ながら適正配置を進めていくこととしております。

続きまして、1ページの下段から2ページにかけては、各校の児童・学級数の現状と今後の見通しを記載しております。

2ページは、令和11年度までの児童数・学級数となっております。全体的に年々児童数は減少しており、南野上小学校は、複式学級3学級が続いた状態となっております。北野上小学校では、令和7年度の入学者が4名となり、令和8年度には複式学級が2学級、令和10年度には全校児童数が40名を下回ります。

次に3ページをご覧ください。南野上小学校・北野上小学校における現状の課題となっております。複式学級は、一人の教師が複数の学年を

同時に指導することから、きめ細かな指導を行いにくいものとなっております。また、行事や音楽・体育など集団教育活動が小規模になることや集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる、多様な考えに触れ、切磋琢磨することが難しい等の課題があります。

次に4ページをご覧ください。本市の学校規模適正化基本方針では、小学校の適正規模を6学級以上（1学年1学級以上）としております。

5ページでは、適正規模校のメリットを記載しております。まず、学習面では、切磋琢磨することを通じて、一人一人の資質や能力をさらに伸ばしやすいこと、集団教育活動に活気が生じやすいこと、生活面では、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすいことや男女の偏りが解消されやすいこと、学校運営面では、教職員数が多くなることから、経験・特性などの面でバランスの取れた教職員配置を行いやすいことなどがあり、その他では、保護者の負担が分散しやすいということがあります。そういったことから、5ページの下段の学校規模適正化の取組方針として、南野上小学校、北野上小学校の学校規模の適正化に取り組んでいくこととします。

次に、6ページをご覧ください。

統合学校の位置に関連して、学校の位置等の現状としましては、中野上小学校周辺は、3つの小学校の中間的な位置となっていることから、中野上小学校周辺を統合学校の位置と考えた時に、7ページ上段にある3つのパターンで検討しております。

7ページ上段の表 ①中野上小学校を活用する場合は、3つの小学校の児童を受け入れられる広さがあり、統合の対応が可能である。しかしながら校舎の残存年数が短い。②中野上小学校周辺に新たな学校敷地を取得する場合は、学校用地の取得費、校舎新築などの費用が必要で開校まで時間を有する。また、学校敷地として一団の土地取得が課題となります。③東海南中学校を活用する場合については、小中で授業時間が違うため、体育館・グラウンド施設を共用することが困難であり、校舎の新築等、整備の必要があり、開校まで時間を要することが課題となっております。そういったことから、統合学校の位置につきましては、南野上小学校、北野上小学校を、各校の中間的な場所にある中野上小学校と統合することにより、学校規模の適正化に取り組む。また、中野上小学校周辺における学校敷地を検討した結果、統合学校の位置は、中野上小学校が適していると考えております。

次に、8・9ページをご覧ください。

こちらは、令和4年11月から令和5年2月にかけて関連する各小学校区の未就学児を含む保護者、学校関係者、地域住民を対象に説明会を実施した意見集約会での意見を記載しております。

南野上小学校区では、統合の計画は、子どもたちにとってありがたいものであり、統合に向けて、交流学習の機会を増やしてほしいとの意見がありました。

北野上小学校区では、北野上小学校がいよいよ少なくなってきた段階で再度、統合することはできないのか、児童数をもっと少なくなるのを待ってから統合という形もいいのではないかと、というようにもう少し統合を後にする意見がありました。中野上小学校の周辺は、道が狭く事故が心配である、中野上小学校は周辺の交通アクセスが悪いというように、中野上小学校周辺の交通状況を心配する意見もありました。

中野上小学校では、小学校周辺の道が狭い、また駐車場の整備が必要など小学校の状況を心配する意見や、今の児童規模での統合の必要性は考えられないので、もう少し中野上小学校の人数が減ってから統合すればいいのではというような意見がありました。

10ページをご覧ください。いただいたご意見からみえてきた課題とその対応と取組方法を記載しております。

課題としましては、統合に向けた交流学習の機会創出・スクールバスを導入した場合の中野上小学校周辺走行時における徒歩児童の安全性確保・北野上小学校における地域住民の中で、将来的な統合は別として、現状での統合についての強い反対意見、また中野上小学校の校舎の整備となります。また、それに対する対応としまして、統合に向けた交流学習の実施・スクールバス導入時の中野上小学校周辺道路の安全性の確保、北野上小学校の保護者等関係者と将来的な統合に向けての調整、中野上小学校の校舎の整備方法については長寿命化事業にて検討となります。

そういったことから統合の取組方法としましては、①先行して令和8年4月に南野上小学校を中野上小学校に統合し、②北野上小学校は、交流学習等を行うとともに、引き続き保護者等関係者と統合についての調整を行うこととします。

この統合の取組方法の説明としましては、南野上小学校は児童の人数も少なく、関係者からの反対意見もあまりないことから、まずは、南野上小学校と中野上小学校を令和8年に統合し、その後、北野上小学校と統合することを考えております。また、北野上小学校については反対意見も多く、中野上小学校からも1クラスの児童数が増えることから、統

合は早いのではないかという意見もあり、そういったことを調整するためこのような取組方法で進めたいと考えております。

次に、11 ページでは、統合までのスケジュールを図で示しております。

令和8年4月に南野上小学校と中野上小学校を統合し、その統合に向け学校統合推進検討会を設置し、統合に係る諸課題を議論していきたいと考えております。以上で説明を終わります。

神出市長

事務局の説明が終わりました。

それでは、教育委員の皆様から、順次、この統合実施計画(案)につきまして、どの部分からでも結構ですので、ご意見・ご提言等をお願いできればと思います。

まず、露峯職務代理、いかがでしょうか。

露峯職務代理

南野上小学校、中野上小学校、北野上小学校、いわゆる三野上地域全体の適正配置について意見を申し上げます。

市長の挨拶でも紹介されておりましたが「海南市学校規模適正化基本方針」において、小学校では児童数が5人を下回る学年が生じている、または見込まれる場合には適正配置を積極的に進めることとなっております。

冒頭に事務局からの説明にもあったように、南野上小学校では既にそうとなっておりますし、北野上小学校でも令和7年、8年の新入生が5人を下回る見込みとなっております。

様々な意見があることは承知しておりますが、一般的に、適切な教育を行うためには一定の人数規模が必要であり、それが生活面でも豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成につながるものと言われております。

そういった意味からも、最終的には3つの小学校の統合が最善の方法だとは思われますが、現時点において北野上小学校の地域住民から現状での統合に強い反対意見があるということでございますので、まずは南野上小学校と中野上小学校を先行する形で統合を進め、それから北野上小学校に対しては交流学习等を積極的に行うことで、統合に向けた保護者や関係者の理解を得ることが大事だと思われま

以上です。

神出市長

露峯職務代理、ありがとうございました。

続いて中山委員、いかがでしょうか。

中山教育委員

南野上小学校の統合に向けた統合推進検討会における議論の進め方に

ついて少し触れさせていただきたいと思います。

南野上小学校につきましては、これまで学校訪問や運動会の観覧等をさせていただく中で、児童の様子や地域との関わりを知ることができました。また、地域に住んでおられる方から地域の子どもたちへの思いをお聞きすることもありました。このようなことから、地域の皆さんが子どもたちのことを気にかけて、学校にも協力的であって、小学校と地域の結びつきが非常に強いことを感じております。

近年の社会の変化に伴って、学校を核とした地域づくりが言われておりまして、学校と地域の連携であるとか、協働が必要とされています。中野上小学校との統合につきましては、保護者だけでなく地域の方も大変気になっているところであると思います。

統合推進検討会においては、そういった方々のご意見を集約して議論を進めることで、保護者や地域の方々にご理解をいただき、スムーズな統合を行えるのではないかと考えております。

以上です。

神出市長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、岩本委員お願いします。

岩本教育委員

私からは学童保育とスクールバス・タクシーについて意見を述べさせていただきます。

保護者からの意見集約の中で、学童保育について、統合に伴って学童の実施場所が中野上小学校になることで、統合される児童の保護者はお迎えの時間が遅くなってしまうなどの意見がありまして、保護者負担をできるだけ軽減できるよう調整する必要があると考えています。

加茂川小学校、大東小学校では、統合に伴い廃校となった校区に在住する児童に対しては、人数規模に応じて、それぞれスクールバス、スクールタクシーを運行しているとのことから、統合に伴い、通学距離が長くなる南野上小学校の児童に対しては、スクールタクシーの運行を検討しており、登下校の安全性を確保したいと考えています。また、将来的に北野上小学校の統合が現実化した際には、スクールバスを運行し、同様に安全性の確保に努めることで、保護者の方の不安を取り除く必要があると考えています。

以上です。

神出市長

ありがとうございました。

それでは、続きまして、熊代委員お願いします。

熊代教育委員

南野上小学校の統合に向けた交流学習の促進に着目して意見をさせていただきます。

南野上小学校は、令和5年度の現状で児童数が各学年4人以下で複式学級が3学級でございますが、児童数の推移を見ても、この状況が続く見込みということから、統合を考えているわけですが、複式学級は、やはり一人の教師が複数の学年を同時に見るということで、学力差や能力差に応じた指導や、きめ細かな配慮を行っていくようになってきます。例えば、一方の学年は、先生が直接、指導できますが、もう一方は、課題学習ということで、学びから離れない工夫が必要となり、教材研究など指導方法にも力を注ぐ必要がでてくると思います。

行動面では、上の学年はリーダーの自覚が育ちますが、下の学年は依頼心が強くなるなど、日常生活にも影響が出ると思います。

そういったことを考えたうえで、確かな学力を習得させるためには、学校生活の安定が必要であると考えます。そして、統合を進めるのと同時に、南野上小学校と中野上小学校との交流学習を推進していく必要があると思いますが、その場合、南野上小学校は少人数の学校から、大人数の学校に行くことに対しては、子どもたちの不安も大きいと思います。

以前、東海南中学校で勤務していた時に、交流学習に近いことを考えまして、数か月後に中学生になる子を小学生の時から先に顔を合わせて、お互いに少しでも分かり合える機会を設けました。これが非常に功を奏しまして、スムーズな中学への進学を実現した記憶があります。

子どもたちは少しでも顔を合わせ、話をするのでお互いを理解し、安心感が宿ってきます。そして先生方も子どもたちの顔もわかり、交流もできますし、子どもの方も先生方の顔が分かるというところで、交流学習はやればやるほどプラスになると思います。そういった様子を見ることで、保護者や地域の方々の統合に対する不安を小さくできるのではないかと期待をします。

令和6年、7年度の交流学習を積極的に行っていただき、令和8年度のスムーズな統合に繋いでいただければと考えています。

以上です

神出市長

ありがとうございました。

それでは、最後に西原教育長、よろしく申し上げます。

西原教育長

今、4人の委員方から教育委員会で協議していた内容も踏まえてご意見をいただきました。

事務局を預かるものとして、今年度の北野上小学校、中野上小学校、

南野上小学校をそれぞれ学校訪問させていただき、子どもたちの授業の様子や学校運営の様子を学校長からお聞きしてきたところでありますが、やはり感じるのは、地域の方が学校を大事にしてくれているということです。

2 ページの表を見ていただくと、南野上小学校については、完全に複式となっているので、授業を見ても、1人、2人の児童を教室の前と後ろに分けて授業をしているというのは、山間部であればやむを得ないところはあるのかも知れませんが、海南市の実情を考えた時、やはり多くの人数の中での子どもたちの生活環境・授業環境を確保するのが最善であると強く感じています。

次に北野上小学校ですが、現在は複式ではありませんが、令和7年度に複式が出て、以後は複式が2学級出てくることとなります。複式学級が出てくると保護者の方々もやはり統合の意識が出てくると思います。

中野上小学校については、もう少し人数が減ってからという意見もあったようですが、令和8年度からだんだんと少なくなって90人台になっていくということです。これはあくまでも想定的人数ですので、実際はこれより少し減るということも考えられます。

表の下から2段目は、南野上小学校と中野上小学校が統合した場合の人数を示しているわけですが、各学年18～25人くらいになっていきます。ですので、中野上小学校に南野上小学校の子どもが来たからといって教室が混雑するということもないと言えますし、さらに三つの小学校の統合の人数推移を見ますと、30人の学級が想定できますが、この中から支援学級に通われる子どももございますので、20人台の学級が出てくることが想定できるということになります。

昨年の11月、市長からお話をお伺いし、岐阜県の山県市というところに視察に行って参りました。

別添の資料をご覧ください。

山県市は、地図の下は岐阜市になり、岐阜市の北隣りにあります。岐阜市の北側に美山町、高富町、伊自良村というところの2町1村が合併して、平成15年に山県市となりました。

別添資料の4ページをご覧ください。

そして、2町1村の学校をどのようにしていくかというところで、全国的にはとにかく統合するという考えが主流であります。山県市は小規模校が点在しています。左側の円のようになっているところがありますが、それが小学校と中学校の児童生徒数になります。ちょうど時計の

12時にあたるところが平成元年になりますが、4,283人あったところが、令和5年度のところでは1,681人となって中学校3校、小学校9校となっています。

山県市の広さはだいたい220km²となっており、海南市の2倍となっており、人口は約27,000人となっています。学校の位置については、小さい学校が散らばっており、令和5年度の児童生徒数が1,681人で学校は中学校3校、小学校が9校となっております。

小学校を見ると、例えば、いわ桜小学校は、27人の複式学級です。また、伊自良北小学校は24人の複式学級となっております。中学校で言えば、高富中学校は420人います。

このような状況の中、統合というのはなかなか難しいと山県市の教育長にも伺いました。やはり2町1村の合併ということで様々な点で統合が難しいということで、最初から統合ではなくて、小規模を生かしたような教育活動ができないかというところで合同教育を実施しているということでした。

5ページをご覧ください。

スクールバスに乗って別の学校へ行くところから、社会と体育の合同授業の様子まで見させていただきました。

合同学習の中で小さい学校の子どもたちの様子も見せていただきましたが、いっしょに交じりあって授業を受けている様子が見られました。

そういったことも参考にしながら本市の北野上小学校、中野上小学校、南野上小学校の適正配置を検討してきた経緯も踏まえ、地域や保護者からのご意見をいただいた内容も含めて検討してきた結果、南野上小学校については、令和8年4月に設定して、統合を進めていきます。

北野上小学校については、地域関係者からの強い反対があったということもあり、南野上小学校の子どもたちを中野上小学校へ連れて行って授業を受け、北野上小学校も同時に交流授業を進め、交流の様子を見ていただいて、調整を行いながら統合に向けて進めていくということ、教育委員会として考えたいということになりました。

南野上小学校は、令和8年4月の統合に向けて交流学习を実施していき、北野上小学校についても継続して交流学习を進めていきたいという考えでありますので皆様方のご協力をいただきたいと考えております。

以上です。

神出市長

ありがとうございました。

統合実施計画(案)について、教育委員会の皆様から、様々なご意見を

頂戴しました。

地域の住民の方への説明会では、北野上小学校区では地域の方から、かなり厳しい反対意見をいただいたということでありました。

小学校というのは明治政府ができてから寺子屋からそれぞれの地域の小学校ができて、150年ほどの歴史があるわけでありますので、地域コミュニティの核というか、地域に根差したものだと思います。

私たちが中学校に通いだした時は新制中学校と言われたくらいで昭和20年の戦争が終了してから、露峯先生が生まれた昭和22年、1947年に中学校ができたので70数年の歴史があり、中学校も小学校の施設自体も地域に根差しています。

先ほどみなさんからお聞きしましたように、南野上小学校におきましては、運動会はもちろんのこと、南野上公民館の文化祭を見ても、地域を挙げて実施しており、地域の方々の強い思いも感じるところであります。しかし、子どものことを考えれば、これから適正な規模で教育をしていかなければならないという思いもあります。

一方で通学距離の問題や保護者の方の不安も解消していかなければなりません。ただこの3つの小学校はきらら子ども園で幼児期にいっしょに幼児教育を受けておりますので、保護者の方々も顔見知りということもあります。

そういったことを含めまして皆さんからいただいた統合実施計画(案)の内容について、教育委員会におかれましても、改めて、ご理解・ご認識を深めていただけたのではないかと思いますので、統合実施計画(案)の趣旨・内容を十分に踏まえ、三野上地域における小学校の適正配置に向けた、一層のご尽力をお願い申し上げ、今日の協議を締めさせていただきたいと思っております。

今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

それでは、続きまして、次第の日程「3 その他」でございますが、教育委員の皆様方から何かご意見等はございませんでしょうか。

全委員 (なし)

神出市長 それでは、これもちまして、令和5年度第1回海南市総合教育会議を閉会いたします。

(午後2時07分 閉会)

